

## 令和 7 年度光化学スモッグ広報等の発令状況等について

兵庫県では、光化学スモッグによる健康被害を未然に防止するため、光化学スモッグ広報等の発令を行っています。

このたび、令和 7 年 4 月 21 日から 10 月 17 日までの光化学スモッグ特別監視期間が終了し、発令状況等の概要をとりまとめましたのでお知らせします。

### 記

#### 1 光化学スモッグ広報等の発令状況

令和 7 年度の光化学スモッグ広報等の発令は、ありませんでした。

発令がないのは、昭和 47 年(1971 年)度の広報等発令業務開始以来、3 度目のことで昨年度から 2 年度連続となります。

#### 2 光化学スモッグによる被害報告

光化学スモッグによる被害の届出は、ありませんでした。

#### 3 令和 7 年度の特徴

(1) 令和 7 年度の光化学スモッグ広報等の発令は、ありませんでした。

この要因として、高気圧に覆われて晴れた日でも、湿った空気の影響を受けることが多くあり、午後から雲が広がり日射が抑えられたことや風が強まったことがあげられます。

(2) 4 月下旬は、気圧の谷や湿った空気の影響で曇りや雨の降る日もありましたが、高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。平均気温は豊岡で平年並、神戸、姫路、洲本（以下「3 地点」とする）で平年より高く、日照時間は神戸、姫路、洲本、豊岡（以下「4 地点」とする）で平年並か平年より多くなりましたが、日最高オキシダント濃度が 100ppb を超えることはありませんでした。

5 月は、高気圧に覆われて晴れた日もありましたが、曇りや雨の日が多く、低気圧や前線の影響で大雨となった日もありました。平均気温と日照時間は 4 地点で平年並、降水量は 3 地点で平年並、豊岡で平年より少なくなりました。13 日は高気圧の中心付近に覆われて雲が少なく、日照時間が 12.5～13.0 時間と長くなり、最高気温も 25～28℃と夏日となったため、日最高オキシダント濃度が相生市で 103ppb となりました。

6 月は、上旬から下旬の前半にかけて梅雨前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多く、大雨となった日もありました。平均気温は 4 地点でかなり高く、日照時間は 4 地点で平年より多くなりました。降水量は豊岡で平年より少なくなりました。中～下旬には高気圧に覆われて晴れて風が弱くなった 20 日、27 日には日照時間が 11.4～13.7 時間と概ね長く、最高気温も 30～36℃と高くなったため、日最高オキシダント濃度は 20 日に三田市で 111ppb、27 日に加古川市で 110ppb となりました。その他にも 100ppb 以上となった日が 4 日ありました。

7月は、太平洋高気圧に覆われて晴れる日が多くなりましたが、湿った空気の影響で曇りや雨の降った日もあり、17日には大雨となったところがありました。平均気温は3地点で平年よりかなり高く、日照時間は3地点で平年よりかなり多くなりました。降水量は姫路で平年より少なく、豊岡で平年よりかなり少なくなりました。上旬と下旬には高気圧に覆われて晴れて風が弱い日が多くなりました。2日、30日、31日には午前中を中心に晴れて日照時間が9.9～13.2時間とやや長くなり、最高気温が33～37℃と高くなったため、日最高オキシダント濃度は2日に相生市で112ppb、30日に宝塚市、31日には西宮市でそれぞれ114ppbとなりました。その他にも100ppb以上となった日が4日ありました。

8月は、太平洋高気圧に覆われて晴れる日が多くなりましたが、前線や熱帯低気圧の影響で曇りや雨の日もありました。7日、10日、11日、14日、25日、27日は大雨となりました。平均気温は4地点で平年よりかなり高く、日照時間は平年並か平年より多くなりました。降水量は姫路で平年より多く、神戸と洲本で平年より少なくなりました。29日には高気圧に覆われて晴れて風が弱く、最高気温が34～36℃と高くなったため、日最高オキシダント濃度は赤穂市で110ppbとなりました。その他にも100ppb以上となった日が2日ありました。

9月は、前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多くなりましたが、高気圧に覆われて晴れた日もありました。2日、4日、5日、11日は大雨のところもありました。平均気温は神戸、姫路、豊岡で平年よりかなり高く、日照時間は神戸、洲本で平年より多くなりました。降水量は姫路で平年より少なくなりました。6日は高気圧に覆われて晴れ間が広がり、日照時間が11.9～12.3時間と長く、最高気温は32～33℃と真夏日となったため、日最高オキシダント濃度が宝塚市で102ppbとなりました。

10月は上旬に高気圧に覆われて晴れて日照時間が多くなりましたが、中旬には曇りや雨の日が多くなり、日最高オキシダント濃度が100ppbを超えることはありませんでした。

## 【参考資料】

### 1 光化学スモッグ広報等の発令状況及び被害届出者数の推移

発令状況及び被害届出者数の推移は、表 1 及び図 1 のとおりです。

表 1 光化学スモッグ広報等の発令状況及び被害届出者数の推移

年度	予 報		注 意 報		発 令 日 数	被害の届出者数 (人)
	日数	延地域数	日数	延地域数		
平成 28 年度	1	1	1	2	1	0
平成 29 年度	2	4	1	1	2	0
平成 30 年度	0	0	2	3	2	0
令和元年度	4	25	3	15	4	0
令和 2 年度	1	1	2	3	3	0
令和 3 年度	0	0	0	0	0	0
令和 4 年度	0	0	1	4	1	0
令和 5 年度	0	0	1	4	1	0
令和 6 年度	0	0	0	0	0	0
令和 7 年度	0	0	0	0	0	0
過去 10 年の平均	0.8	3.1	1.1	3.2	1.4	—

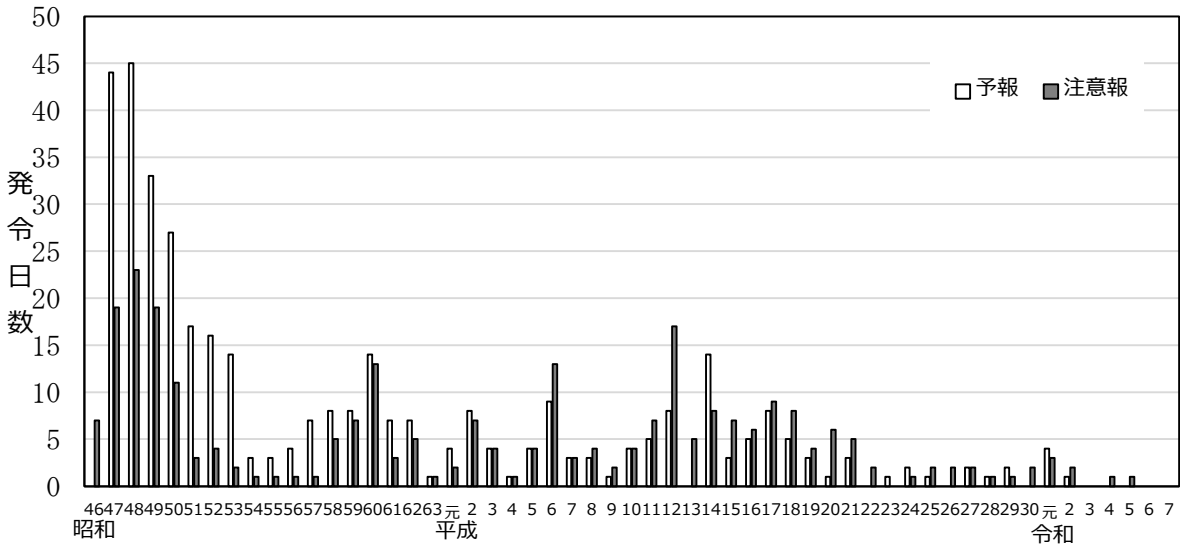


図 1 光化学スモッグ広報等の発令日数の推移

### 2 光化学スモッグ特別監視期間中の気象状況等

#### (1) 梅雨入り及び梅雨明け並びに降水量

今年の梅雨入りは 5 月 17 日頃（平年は 6 月 6 日頃）、梅雨明けは 6 月 27 日頃（平年は 7 月 19 日頃）で、梅雨入りは平年より 20 日、梅雨明けは平年より 22 日早く、梅雨入り・梅雨明けの記録がある 1951 年以降、最も早い梅雨明けとなりました。5 月の中旬には移動性高気圧が太平洋上で強まり西へ張り出したため、前線が南西諸島付近から日本の南で停滞したことにより、梅雨入りが早まりました。

6 月下旬の中ごろには梅雨前線が南下し日本の東海上に遠ざかった後、本州付近を高気圧が覆う状況が続いたことにより、梅雨明けが早まりました。

近畿地方における梅雨の時期の降水量平年比は 84%となりました。

## (2) 最高気温（神戸）

神戸市の日最高気温の月平均値は、5月：23.7℃（平年比+0.1℃）、6月：28.1℃（平年比+1.4℃）、7月：33.5℃（平年比+3.1℃）、8月：33.2℃（平年比+1.0℃）、9月：30.9℃（平年比+2.1℃）となりました。

図2の旬別で見ると、4月下旬は高気圧に覆われて晴れる日が多く、平年より高くなりました。6月中旬から7月中旬にかけてと8月下旬から10月上旬にかけて暖かく湿った空気の流れ込みのため、顕著な高温となりました。

## (3) 日照時間（神戸）

神戸市の月ごとの日照時間は、5月：176.3時間（平年比-26.3時間）、6月：192.2時間（平年比+28.8時間）、7月：316.0時間（平年比+126.6時間）、8月：257.9時間（平年比+28.3時間）、9月：187.8時間（平年比+23.9時間）でした。

図2の旬別で見ると、4月下旬及び5月上旬は高気圧に覆われて平年より多くなりました。

5月下旬及び6月上旬は、梅雨前線や上空の寒気の影響を受け平年よりかなり少なくなりました。

6月中旬後半から7月下旬にかけては、高気圧に覆われて晴れる日が平年より多くなりました。

8月上旬及び中旬は平年並となりましたが、8月下旬から9月中旬にかけては高気圧に覆われて平年より多くなりました。

10月上旬は、高気圧に覆われて平年より多くなりました。中旬は前線や湿った空気の影響で平年よりかなり少なくなりました。

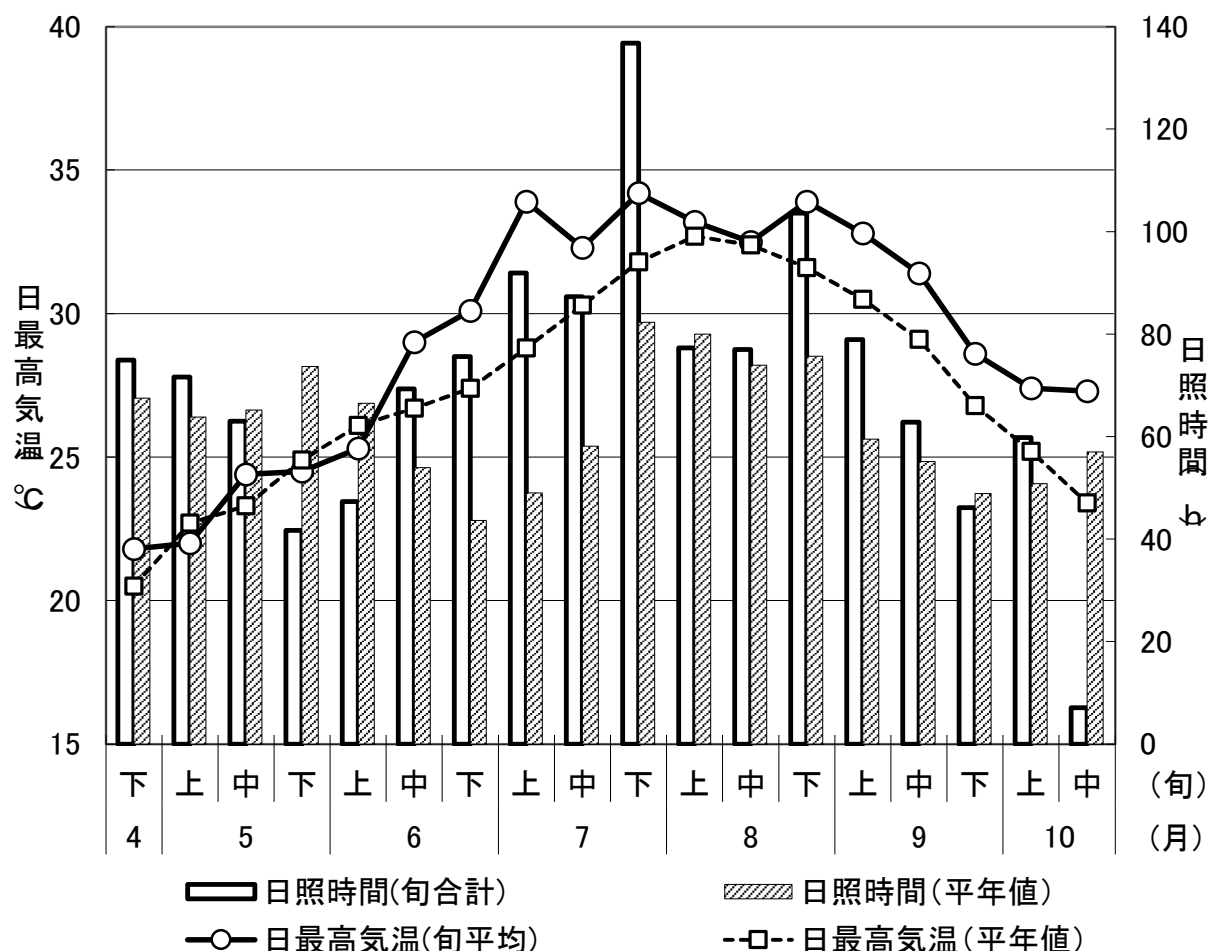


図2 令和7年度 特別監視期間中の日最高気温(旬平均)と日照時間(旬合計)【神戸】

### 3 光化学スモッグ広報等の発令基準及び措置の内容について

光化学スモッグ広報等の発令基準及び措置の内容は、「光化学スモッグ緊急時対策実施要領」で定めています（表2）。

表2 光化学スモッグ広報等の発令基準及び措置の内容

区 分	発 令 基 準	措 置 の 内 容
予 報	オキシダント濃度が、気象条件等から注意報の発令基準に達するおそれがあると判断したとき	<ul style="list-style-type: none"><li>・工場・事業場への窒素酸化物排出量の20%削減要請</li><li>・有機溶剤等炭化水素の使用抑制の要請</li><li>・不要不急の自動車運転の自粛要請</li></ul>
注 意 報	オキシダント濃度の1時間値が0.12ppm以上になり、気象条件からみて、その濃度が継続すると認められるとき	上記措置の徹底及び確認
警 報	オキシダント濃度の1時間値が0.24ppm以上になり、気象条件からみて、その濃度が継続すると認められるとき	上記措置の徹底及び確認
重大警報	オキシダント濃度の1時間値が0.40ppm以上になり、気象条件からみて、その濃度が継続すると認められるとき	<ul style="list-style-type: none"><li>・工場・事業場への窒素酸化物排出量の40%削減要請</li><li>・有機溶剤等炭化水素の使用抑制の要請</li><li>・自動車運転者への公安委員会の指示</li></ul>